



システム管理設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [送信メール サーバの設定, 2 ページ](#)
- [電子メール テンプレートの使用, 2 ページ](#)
- [システム パラメータの設定 \(任意\) , 5 ページ](#)
- [ライセンスの更新, 7 ページ](#)
- [ライセンス使用率の確認, 8 ページ](#)
- [ライセンス使用率履歴の表示, 8 ページ](#)
- [リソース使用率データの表示, 9 ページ](#)
- [アプリケーション カテゴリの編集, 9 ページ](#)
- [ポータルのカスタマイズ, 10 ページ](#)
- [レポートのカスタマイズ, 16 ページ](#)
- [詳細な制御の有効化, 17 ページ](#)
- [サービス プロバイダー機能の有効化, 18 ページ](#)
- [ユーザ メニュー, 19 ページ](#)
- [ユーザ権限の設定, 20 ページ](#)
- [システムのタスク, 20 ページ](#)
- [アイコンの管理, 25 ページ](#)
- [タグ ライブラリ , 28 ページ](#)
- [サポート情報, 34 ページ](#)

送信メールサーバの設定

Cisco UCS Director から送信されるすべての電子メールで、SMTP サーバが必要です。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [電子メール設定] タブを選択します。
- ステップ 3** [電子メール設定] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[送信電子メールサーバ (SMTP)] フィールド	送信 SMTP サーバのアドレス。
[送信SMTPポート] フィールド	送信 SMTP サーバ ポートの番号。
[送信SMTPユーザ] フィールド	ユーザ ID。
[送信SMTPパスワード] フィールド	ユーザのパスワード。
[アドレス] フィールド	ユーザの電子メールアドレス。
[CloupiaサーバIPアドレス] フィールド	Cisco UCS Director 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはDNS名。このフィールドは、ユーザのワークフロー処理に対して、電子メールで正しいリンクを作成するために使用します。 [テストメールの送信] チェックボックス：現行の電子メール設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

- ステップ 4** [保存] をクリックします。

電子メール テンプレートの使用

Cisco UCS Director には通知メカニズムがあり、VM のプロビジョニングなど、特定のイベントが発生した場合に管理者に送信される電子メールを設定できます。また、すべてのタスクについて承認が必要な場合には、1 人の管理者、またはグループの管理者へ電子メール通知を送信できます。



(注) 電子メールの通知に対して複数の受信者を指定できます。カンマを区切り文字として使用して、複数の電子メールアドレスを区切ります。

Cisco UCS Director には、異なるシナリオに対応する、HTML 形式の電子メール テンプレートのセットがあります。電子メールテンプレートを使用して実行できるタスクには、たとえば次のものがあります。

- 新しい電子メール テンプレートの追加
- 既存の電子メールテンプレートの編集：電子メールテンプレートについて、件名とメッセージの詳細、または書式設定とプレゼンテーションのフィールドを編集できます。テンプレート内の Java 関連の情報は変更しないでください。
- 電子メールテンプレートのプレビュー：電子メールのコンテンツをプレビュー表示して、電子メール テンプレートをさらに変更するかどうかを判断できます。
- 電子メール テンプレートをデフォルトに設定：デフォルトの電子メール テンプレートに基づいて電子メール通知が送信されるように設定できます。
- 電子メール テンプレートの削除：追加したテンプレートを削除できます。ただし、次のいずれかの条件にあてはまる場合は、テンプレートを削除することはできません。
 - テンプレートを追加してデフォルトのテンプレートに設定した。
 - システムによって提供されたテンプレートである。

電子メール テンプレートの追加

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理] > [システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [電子メールテンプレート] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加] (+) をクリックします。
- ステップ 4** [テンプレートの追加] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

名称	説明
[電子メール テンプレート名] フィールド	電子メール テンプレートの名前。
[テンプレートの説明] フィールド	電子メール テンプレートの説明。
[テンプレートのタイプ] ドロップダウンリスト	追加する電子メールテンプレートのタイプを選択します。このドロップダウンリストには、システムで生成されたテンプレートが表示されます。

名称	説明
[件名 (Subject)] フィールド	電子メール テンプレートの件名行。
[デフォルトの件名にリセットします (Reset to Default Subject)] チェック ボックス	このチェック ボックスをオンにすると、入力した件名行が削除され、システムにより提供された件名行が [件名 (Subject)] フィールドに読み込まれます。
[本文 (Body)] フィールド	電子メールのコンテンツ、フォントのサイズと色、通知トリガーなど、電子メールテンプレートを定義する HTML コード。
[デフォルトの本文にリセットします (Reset to Default Body)] チェック ボックス	このチェックボックスをオンにすると、システムが提供する電子メールテンプレートで使用されている HTML コードが、[スクリプト] フィールドに入力されます。 HTML コードが入力された後で、コードに対する変更を維持するには、このチェックボックスをオフにする必要があります。

ステップ 5 [送信] をクリックします。

次の作業

さらに変更を加えるかどうかを判断するには、電子メールテンプレートをプレビューで表示します。

電子メール テンプレートのプレビュー

Cisco UCS Director で新しい電子メール テンプレートを作成すると、電子メール コンテンツのプレビューを表示して、さらに変更が必要かどうかを判断できます。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [電子メールテンプレート] タブをクリックします。
- ステップ 3 テーブルから電子メールテンプレートを選択します。
- ステップ 4 [テンプレートのプレビュー] をクリックします。
- ステップ 5 [レポートの起動] ダイアログ ボックスで [送信] をクリックします。

(注) 電子メール テンプレートのプレビュー モードでは、静的な情報だけが表示されます。顧客名などの動的な情報やリソースは表示されません。

次の作業

必要に応じて、電子メール テンプレートに戻ってさらに変更を加えることができます。

デフォルトの電子メール テンプレートの設定

通常は、システム テンプレートがデフォルトの電子メール テンプレートに設定されています。特定のシナリオで複数のテンプレートを追加した場合は、いずれかのテンプレートをデフォルトのテンプレートとして選択できます。デフォルトとして設定したテンプレートは通知に使用されます。

手順

- ステップ1 メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [電子メールテンプレート] タブをクリックします。
- ステップ3 テーブルから電子メール テンプレートを選択します。
- ステップ4 [デフォルトの電子メール テンプレートとして設定] をクリックします。

システム パラメータの設定（任意）

システム パラメータの設定

システム パラメータを編集する必要があるのは、デフォルト値を変更する必要がある場合だけです。

手順

- ステップ1 メニュー バーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [システムパラメータ] タブを選択します。
- ステップ3 [システム] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[削除したVMのデータを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムでVMデータを保持する日数。

名称	説明
[イベントを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムですべてのイベントを保持する日数。 (注) 指定された期間よりも古いイベントは削除されます。
[傾向データを保持する日数] フィールド	ユーザが定義した、システムでインベントリの傾向データまたは履歴データ (CPU、ストレージ、メモリ使用状況など) を保持する日数。 (注) このデータはレポートに使用されません。
[計測データを保持する日数] ドロップダウンリスト	ユーザが定義した、システムでVM計測レコードを保持する日数。 (注) このデータは、VMとリソースに固有です。
[URLからのVMロックコントロールのダウンロード] フィールド	指定された URL からの VM ロック コントロール。 (注) このファイルはXML形式である必要があります。
[通貨] ドロップダウン リスト	使用する通貨の種類を選択します。 使用可能な通貨は、[US]、[EURO]、[GBP]、[KRW]、[CAD]、[CHF]、[CLP]、[NR]、[JPY]、[AUD]、[NZD]、[SGD]、[HKD]、[MYR]、[MXN]、[BRL]、[AED]、[DKK]、[SEK]、[KWD]、[CYN]、[RUB]、[ZAR]、および [その他] です。
[通貨] フィールド	通貨の名前 (1つのみ) を入力します。 (注) このフィールドは、通貨として [その他] が選択されている場合に表示されます。
[通貨の精度 (小数点以下の桁数)] ドロップダウンリスト	通貨の小数点以下の精度を選択します。使用可能な小数点以下の精度は 0 から 5 です。
[資金残高確認間隔 (分)] ドロップダウンリスト	資金の残高を確認する間隔を選択します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

インフラストラクチャ システム パラメータの設定（任意）

仮想および物理システムインフラストラクチャリソースのポーリングに関するパラメータを設定できます。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ2 [インフラストラクチャシステムパラメータ]タブを選択します。
- ステップ3 エントリ ボックスに、システム インフラストラクチャのトレンドデータを保持する日数を入力します。デフォルトは30日です。
- ステップ4 [保存]をクリックします。

ライセンスの更新

製品認証キー（PAK）を使用して、ライセンスを更新することができます。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。
- ステップ2 [ライセンスキー]タブを選択します。
- ステップ3 [ライセンスの更新]オプションをクリックします。
[PAKの更新]ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ4 [参照]をクリックして PAK ライセンス ファイルにナビゲートし、ファイルを選択します。
- ステップ5 PAK ライセンス ファイルをアップロードするには、[アップロード]をクリックします。
(注) ライセンス ファイルをアップロードしない場合は、チェックボックスをオンにして、ライセンス テキストをライセンス テキスト フィールドにコピー アンド ペーストします。
- ステップ6 [送信]をクリックします。
ライセンスが更新されます。

ライセンス使用率の確認

[ライセンス使用率] ページに、使用中のライセンス、および各ライセンスの詳細（ライセンスの期限、使用可能な数、ステータス、コメントなど）が表示されます。ライセンスの監査もこのページから実行できます。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。
 - ステップ 2 [ライセンス使用率] タブを選択します。
 - ステップ 3 Cisco UCS Director アプライアンスを選択します。
 - ステップ 4 （任意）ライセンス監査を実行するには、[ライセンス監査の実行] をクリックします。
 - ステップ 5 [ライセンス監査の実行] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。このプロセスは、実行に数分かかります。
-

ライセンス使用率履歴の表示

ネットワークリソースの利用状況を把握するため、ライセンス取得済みネットワークコントローラ、ストレージコントローラ、サーバ、サーバおよびデスクトップVM、およびスモールポッドとミディアムポッドの数を時間の経過に伴い追跡できます。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。
 - ステップ 2 [ライセンス使用率履歴] タブを選択します。
次のリソース カテゴリのライセンス使用率履歴がタイムスタンプとともに表示されます。
 - ネットワーク コントローラ
 - ストレージ コントローラ
 - サーバ
 - サーバ VM
 - デスクトップ VM
 - スモールポッド
 - ミディアムポッド
-

リソース使用率データの表示

ご使用の環境でのリソースの使用状況を確認できます。

手順

ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ライセンス]の順に選択します。

ステップ2 [リソース使用率のデータ]タブを選択します。
使用可能なレポートカテゴリを次に示します。

- リソース名：Cisco UCS Director に関連付けられている利用可能なリソースの名前。
- リソース数：利用可能な各リソースの数。

アプリケーションカテゴリの編集

Cisco UCS Director を使用してプロビジョニングされた VM はすべて、そのタイプに基づいて分類されます。VM タイプは、Web サーバ、データベース、アプリケーションサーバ、またはその他です。Cisco UCS Director には、検出された VM のための別個のカテゴリもあります。

使用または編集できるアプリケーションカテゴリを以下に示します。

- 検出された VM
- 汎用 VM
- Web サーバ
- アプリケーションサーバ
- データベース
- アプリケーション - CPU 集約型
- アプリケーション - メモリ集約型
- アプリケーション - ディスク集約型
- アプリケーション - ネットワーク集約型
- その他のアプリケーション 1
- その他のアプリケーション 2
- その他のアプリケーション 3

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [アプリケーションカテゴリ]タブを選択します。
- ステップ 3** アプリケーションカテゴリを選択します。
- ステップ 4** [編集]をクリックします。
- ステップ 5** [カテゴリの編集]ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[カテゴリID]フィールド (表示専用)	システムによりカテゴリに割り当てられた数値。
[カテゴリラベル]フィールド	カテゴリ タイプ。
[カテゴリコード]フィールド	VM およびホストの名前。
[説明]フィールド (表示専用)	ポリシーの説明。
[有効になっているカテゴリ]チェックボックス (表示専用)	デフォルトではこのチェックボックスはオンになっています。
[デフォルトのスマート割り当てアルゴリズム]ドロップダウンリスト	アルゴリズムを選択します。

- ステップ 6** [送信]をクリックします。

ポータルのカスタマイズ

組織でセルフサービスポータルをカスタマイズできます。ブランディングおよびユーザーインターフェイス関連の変更に対して、ロゴ、ログインページ、ホームページなどをカスタマイズできます。

ログインページと背景イメージのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードして、ログインページと背景イメージを変更できます。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ 2** [ログインページ]をクリックします。
- ステップ 3** [カスタマイズ可能なログインページの使用 (Use customizable Login page)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ロゴイメージ (Logo Images)] ペインで、[追加 (Add)] をクリックして次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージラベル (Image Label)] フィールド	イメージの名前。
[説明] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	イメージファイルを検索して選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。 重要 最適なイメージは、幅 200 ピクセル、高さ 100 ピクセルの PNG 形式です。
[アップロード (Upload)] オプション	イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。 このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。
[送信 (Submit)] オプション	イメージのアップロード後、[送信 (Submit)] をクリックします。

- ステップ 5** [背景画像 (Background Images)] ペインで、項目を選択するか、[追加 (Add)] をクリックして次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージラベル (Image Label)] フィールド	イメージの名前。
[説明] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択 (Select a file for Upload)] フィールド	イメージファイルを検索して選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。 重要 最適なイメージは、幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセル、余白 255 ピクセルです。また、イメージは PNG 形式である必要があります。

フィールド	説明
[アップロード (Upload)] オプション	<p>イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。</p> <p>このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。</p>

ステップ 6 [送信] をクリックします。

アプリケーション ロゴのカスタマイズ

カスタムイメージをアップロードしてホームページのアプリケーションロゴをカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。

ステップ 2 [アプリケーションロゴ] タブを選択します。

ステップ 3 [イメージ (Images)] ペインで、[追加 (Add)] をクリックしてリストされていない新規イメージを追加し、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージラベル (Image Label)] フィールド	イメージの名前。
[説明] フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択] フィールド	<p>イメージ ファイルを検索して選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。</p> <p>重要 サポートされるイメージの形式は、PNG、JPG、および GIF です。最適なイメージサイズは幅 100 ピクセル、高さは 50 ピクセルです。</p>
[アップロード (Upload)] オプション	<p>イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。</p> <p>このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。</p>

ステップ4 [送信] をクリックします。

ファビコンのカスタマイズ

ページがブックマークされている場合に、ブラウザのアドレスバーやそのページ名の横に表示されるお気に入りアイコン（ファビコン）をカスタマイズできます。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [ファビコン]タブを選択します。
- ステップ3 [イメージラベル (Image Label)]列で、[追加 (Add)]をクリックしてリストされていない新規イメージを追加し、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[イメージラベル (Image Label)]フィールド	イメージの名前。
[説明]フィールド	アップロードするイメージの説明。
[アップロードするファイルの選択]フィールド	イメージファイルを検索して選択するには、 [参照 (Browse)]をクリックします。 重要 サポートされるイメージの形式は PNG です。最適なイメージサイズは 16x16 ピクセルです。
[アップロード (Upload)]オプション	イメージをアップロードするには、このオプションをクリックします。 このオプションは、イメージを参照し選択した後にのみ有効になります。

ステップ4 [送信] をクリックします。

アプリケーションヘッダーのカスタマイズ

顧客ロゴの横のセルフサービスポータルラベルをカスタマイズするには、既存のラベルを変更します。

手順

ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。

ステップ 2 [アプリケーションヘッダー] タブを選択します。

ステップ 3 [アプリケーションヘッダー] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ヘッダー全体の非表示] チェックボックス	ヘッダーセクションを非表示にするには、このチェックボックスをオンにします。オンにすると、ロゴイメージ、アプリケーション名、リンク ([ログアウト] など) を含むヘッダーが非表示になります。
[製品名] フィールド	製品名の続き。
[製品名の2行目] フィールド	製品名の続き。
[[バージョン情報]ダイアログの有効化] チェックボックス	ヘッダーで[バージョン情報]リンクを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。ヘッダーで[バージョン情報]リンクを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。
[管理者ポータル]	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク1のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク1のURL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク2のラベル。
[カスタムリンク2のURL] フィールド	管理者ポータルのカスタムリンク2のURL。
エンドユーザポータル	
[カスタムリンク1のラベル] フィールド	エンドユーザポータルのカスタムリンク1のラベル。
[カスタムリンク1のURL] フィールド	エンドユーザポータルのカスタムリンク1のURL。
[カスタムリンク2のラベル] フィールド	エンドユーザポータルのカスタムリンク2のラベル。

名称	説明
[カスタムリンク2のURL] フィールド	エンド ユーザ ポータルのカスタム リンク 2 の URL。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

日付表示のカスタマイズ

さまざまな日付表示の形式がサポートされています。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
 - ステップ 2** [日付の表示] タブを選択します。
 - ステップ 3** 日付形式を編集します。
 - ステップ 4** 必要に応じて、[タイムゾーンの非表示] をクリックし、タイムゾーンがユーザインターフェイスに表示されないようにします。
 - ステップ 5** [保存] をクリックします。
-

カラー テーマのカスタマイズ

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[管理] > [ユーザインターフェイス設定] の順に選択します。
 - ステップ 2** [カラーテーマ] タブを選択します。
 - ステップ 3** ドロップダウン リストから使用可能なテーマ スタイルを選択します。
 - ステップ 4** [保存] をクリックします。
-

ログアウト時のリダイレクト先のカスタマイズ

手順

-
- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
 - ステップ2 [ログイン時のリダイレクト先]タブを選択します。
 - ステップ3 URLを入力します。
 - ステップ4 [保存]をクリックします。
-

レポートのカスタマイズ

レポートのカスタマイズでは、カスタムラベルを作成したり、使用可能なレポートを非表示にしたりできます。

手順

-
- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
 - ステップ2 [レポートのカスタマイズ]タブを選択します。
 - ステップ3 レポートを選択します。
 - ステップ4 [編集]をクリックします。
 - ステップ5 ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[レポートを非表示]チェックボックス	レポートを非表示にするには、このチェックボックスをオンにします。レポートを表示するには、このチェックボックスをオフにします。
[新しいラベル]フィールド	レポートの新しいラベル（必要な場合）。

- ステップ6 [保存]をクリックします。
-

詳細な制御の有効化

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [詳細な制御] タブを選択します。
- ステップ 3** 次の手順を実行します。

名称	説明
[パフォーマンスモニタリング (Performance Monitoring)] チェック ボックス	仮想インフラストラクチャのモニタリング、物理インフラストラクチャのモニタリング、および外部クラウドのモニタリングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 必要に応じて、このカテゴリのチェックボックスをすべてオンにします。
[リソース メーター] チェックボックス	VM メーター機能のモニタリングを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。 (注) VMメーター機能が無効になっている場合、チャージバックは作動しません。
[イベントのモニタリング] チェックボックス	仮想および物理インフラストラクチャのイベントを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[自動サポート (Auto Support)] チェック ボックス	自動サポートを有効にする場合は、このチェック ボックスをオンにします。
[ヒート マップ レポート コンピューティング] チェックボックス	仮想インフラストラクチャのヒート マップ レポートの生成を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[自動評価] チェックボックス	仮想評価のレポートを生成するには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[適応プロビジョニングインデックス]チェックボックス	<p>さまざまなホストパラメータについてホストのロードインデックスを有効にし、4時間ごとに計算するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>これらのインデックスは、カタログの適応プロビジョニングで使用されます。インデックスの数が小さいと、ホストがプロビジョニング対象として選択される可能性が高くなります。このプロセスは、特定の VDC のコンピューティングポリシーに従って機能します。</p>
[VDCポリシーに基づいて非アクティブなVMを削除 (Delete Inactive VMs Based on VDC Policy)] チェックボックス	<p>管理者が指定した時間が経過した後、VDCの非アクティブな（電源がオフになっている）VMを有効化して削除するには、このチェックボックスをオンにします。このプロパティは、VDCの[非アクティブなVMを削除するまでの期間]フィールドに関連付けられます。</p> <p>(注) デフォルトでは、このプロパティボックスはオフになっています。</p>
[システムタスクのリモート実行]チェックボックス	<p>管理のためにリモート実行を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

ステップ 4 [送信] をクリックします。

サービスプロバイダー機能の有効化

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [サービスプロバイダー機能 (Service Provider Feature)] タブを選択します。
- ステップ 3** 次の手順を実行します。

名前	説明
[Enable Service Provider Feature (Requires System Restart) (サービスプロバイダー機能の有効化 (システムの再起動が必要))] チェックボックス	Cisco UCS Director でサービスプロバイダーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[組織名 (第1レベル) (Organization Name (First Level))] フィールド	この機能を有効にする親組織の名前。
[組織名 (第2レベル) (Organization Name (Second Level))] チェックボックス	この機能を有効にする子組織の名前。

ステップ 4 [送信] をクリックします。

ユーザメニュー

個々のユーザロールに応じてカスタマイズしたメニュー操作を有効にすることができます。



(注) 使用できるメニュー設定はユーザ権限によって異なります。たとえば、読み取りおよび書き込み権限が付与されている場合にのみ、メニューの操作を表示したり実行したりできます。

ユーザメニューの設定

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理] > [システム] の順に選択します。
- ステップ 2** [メニュー設定] タブを選択します。
- ステップ 3** ドロップダウンリストから、ユーザロールを選択します。
- ステップ 4** チェックボックスをオン/オフにしてロールに対するメニューの許可を設定するか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [送信] をクリックします。

ユーザ権限の設定

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
 - ステップ 2 [ユーザの権限] タブを選択します。
 - ステップ 3 ドロップダウン リストから、ユーザ ロールを選択します。
 - ステップ 4 [許可されている操作] ダイアログボックスで、選択したユーザ ロールの読み取り/書き込み操作を確認できます。
 - ステップ 5 チェックボックスをオン/オフにして個々のロールの読み取り/書き込み操作の許可を設定するか、[デフォルトにリセット] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 6 [送信] をクリックします。
-

システムのタスク

[システムのタスク (System Tasks)] タブには、現在 Cisco UCS Director で利用可能なすべてのシステム タスクが表示されます。ただし、このシステム タスクのリストは、Cisco UCS Director で作成したアカウントのタイプにリンクされています。たとえば、初めてログインした場合は、一連の汎用システム関連のタスクまたは VMware 関連タスクだけがこのページに表示されます。ラック アカウントや Cisco UCS Manager アカウントなどのアカウントを追加した時点から、これらのアカウントに関連するシステムのタスクがこのページに読み込まれます。

以下は、[システムのタスク (System Tasks)] ページから完了できるタスクです。

- 使用可能なシステム タスクの参照：[展開 (Expand)] および [折りたたむ (Collapse)] オプションを使用して、このページで使用可能なすべてのシステム タスクを表示できます。タスクは Cisco UCS Director で使用可能なアカウントに従って分類されます。例：Cisco UCS タスク、NetApp タスクなど。
- システムタスクの無効化と有効化：アプライアンスで実行しているプロセスまたはタスクが複数ある状況において、システム タスクの無効化を選択することができます。無効にすると、手動で有効にするまで、システム タスクは実行されません。これは他のレポートに入力されるデータに影響します。たとえば、インベントリ収集のシステム タスクを無効にすると、このデータが必要なレポートに正確なデータが表示されない場合があります。この場合、インベントリ収集プロセスを手動で実行するか、システム タスクを有効にする必要があります。

詳細については、[システム タスクの有効化または無効化](#)、(25 ページ) を参照してください。

サーバが1台しかないシングルノード設定では、すべてのシステムタスクがこのサーバで実行されます。複数のサーバが設定されているマルチノード設定では、デフォルトですべてのシステムタスクがプライマリサーバで実行されます。ただし、セカンダリサーバで実行するシステムタスクを指定できます。次は、このタスクを実行する推奨手順です。

- 1 セカンダリサーバがノードとして Cisco UCS Director で使用できることを確認します。サーバが使用できない場合、サーバをノードとして追加する必要があります。詳細については、[サービスノードの作成](#)、(23 ページ) を参照してください。
- 2 使用可能なサーバからノードプールを作成します。詳細については、[ノードプールの作成](#)、(21 ページ) を参照してください。
- 3 システムタスクポリシーを作成し、ノードポリシーと関連付けます。詳細については、[システムタスクポリシーの作成](#)、(21 ページ) を参照してください。
- 4 ノードプールをシステムタスクポリシーと関連付けます。詳細については、[システムタスクポリシーへのノードプールの割り当て](#)、(22 ページ) を参照してください。
- 5 システムタスクを選択し、システムタスクポリシーと関連付けます。詳細については、[システムタスクへのシステムポリシーの割り当て](#)、(24 ページ) を参照してください。

ノードプールの作成

手順

-
- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
 - ステップ2 [サービスノード]タブを選択します。
 - ステップ3 [サービスノードプール]アイコンをクリックします。[サービスノードプール]ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ4 + (正符号)アイコンをクリックします。[サービスノードプールにエントリを追加]ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ5 [名前]フィールドに、ノードプール名を入力します。
 - ステップ6 (任意) [説明]フィールドに、ノードプール名の説明を入力します。
 - ステップ7 [送信]をクリックします。ノードプールが作成されます。
-

システムタスクポリシーの作成

複数のシステムタスクを1つのシステムタスクポリシーとしてグループ化して、どのシステムタスクがどのノードで実行されるかを後で決定できます。



- (注) 新しいシステム タスク ポリシーは、デフォルトのシステム タスク ポリシーに加えて、1つ以上のポリシーが必要であると管理者が判断したときに作成されます。

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [システムタスクポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3 [追加] アイコンをクリックします。 [追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 4 [名前] フィールドに、システム タスク ポリシーに指定する名前を入力します。
- ステップ 5 (任意) [説明] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。
- ステップ 6 [ノードプール] ドロップダウン リストから、このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを選択します。
- ステップ 7 [送信] をクリックします。 選択したノードプールは、新しく作成されたシステムタスクポリシーに属するようになりました。

システム タスク ポリシーへのノード プールの割り当て

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [システムタスクポリシー] タブを選択します。
- ステップ 3 既存のシステム タスク ポリシーを [名前] 列から選択して、[編集] アイコンをクリックします。 [編集] ダイアログボックスが表示されます。

(注) デフォルトのシステム タスク ポリシーが使用されている場合、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。 デフォルトとは異なるポリシーを設定する場合は、[システム タスク ポリシーの作成](#)、(21 ページ) の項を参照してください。
- ステップ 4 このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを [ノードプール] ドロップダウン リストから選択します。
- ステップ 5 [送信] をクリックします。 選択したノードプールは、このシステムタスクのポリシーに属することになります。

サービスノードの作成

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[システム]の順に選択します。
- ステップ 2** [サービスノード] タブを選択します。
- ステップ 3** [追加] (+) ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [サービスノード] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[ノード名] フィールド	サービスノードの名前を入力します。
[ロール] フィールド	サービスはこのノードのロールとして記述されます。
[サービスノードプール] ドロップダウンリスト	[default-service-node-pool] が選択されています。
[DNS名] フィールド	サービスノードの DNS 名または IP アドレスを入力します。 (注) このフィールドには、プライマリノードの IP アドレスは使用できません。有効なサービスノード DNS 名または IP アドレスが入力されていることを確認します。
[説明] フィールド	サービスノードの説明。
[プロトコル] ドロップダウンリスト	[http] (デフォルト) または [https] を選択します。
[ポート] フィールド	Hypertext Transfer Protocol (HTTP) のデフォルトの TCP ポートは、デフォルトでは 80 が入力されます。必要に応じて異なる TCP ポートを入力します。

名称	説明
[ユーザ名] フィールド	<p>デフォルトでは、ユーザ名 <code>infraUser</code> が入力されます。 <code>infraUser</code> は、デフォルトで作成されるユーザアカウントです。 メニュー バーからこのユーザアカウントを検索するには、[管理]>[ユーザとグループ] を選択します。 [ログインユーザ] タブを選択し、[ログイン名] 列で <code>infraUser</code> ユーザアカウントを見つけます。</p> <p>(注) <code>InfraUser</code> ユーザ名は UCS Director システム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。 別のユーザ名をこのフィールドに追加できます。 サービス ノードでの認証に、このユーザの API キーが使用されます。</p>

ステップ 5 [送信] をクリックします。

システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
- ステップ 2 [システムタスク] タブを選択します。
- ステップ 3 システムタスクを含むフォルダを選択します。 フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。

(注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ 4 タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。 [タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5 [タスク実行] ドロップダウン リストから [有効化] を選択します。
- ステップ 6 [システムタスクポリシー] ドロップダウン リストからシステム ポリシーを選択します。
- ステップ 7 [送信] をクリックします。 選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。

システム タスクの実行

手順

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
 - ステップ 2** [システムタスク] タブを選択します。
 - ステップ 3** リストからタスクを選択します。
 - ステップ 4** [今すぐ実行] をクリックします。 選択されたタスクによってその情報が更新されます。
-

システム タスクの有効化または無効化

手順

-
- ステップ 1** メニュー バーで、[管理]>[システム] の順に選択します。
 - ステップ 2** [システムタスク] タブを選択します。
 - ステップ 3** システムタスクを含むフォルダを選択します。 フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。
(注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
 - ステップ 4** タスクを選択し、[タスクの管理] アイコンをクリックします。 [タスクの管理] ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 5** システム タスクを無効にするには、[タスクの実行 (Task Execution)] ドロップダウンリストから [無効 (Disable)] を選択します。
 - ステップ 6** システム タスクを有効にするには、[タスクの実行 (Task Execution)] ドロップダウンリストから [有効 (Enable)] を選択します。
 - ステップ 7** [送信] をクリックします。
-

アイコンの管理

Cisco UCS Director は、カタログ アイコンのカスタマイズと管理をサポートします。 各アイコンセットには多くのイメージが含まれます。 各アイコンセット内のイメージはカタログ作成フォームで使用できるアイコンに対応しています。

4 組の事前設定されたアイコン セットは次のとおりです。

- コンテナ カタログ アイコン セット
- カタログ フォルダ アイコン セット
- 高度なカタログ アイコン セット
- 標準カタログ アイコン セット
- VDI カタログ アイコン セット

アイコンの追加

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ 2** [アイコン管理] タブを選択します。
- ステップ 3** アイコンセットカテゴリを選択します。
- ステップ 4** [アイコンイメージ] をクリックします。
- ステップ 5** [アイコンイメージの管理 (Manage Icon Images)] ダイアログボックスで、[追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 6** [アイコンイメージへのエントリの追加 (Add entry to Icon Images)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[イメージラベル (Image Label)] フィールド	イメージの新しいラベル。このラベルは、カタログの作成中にアイコンのドロップダウンリストに表示するために使用されます。
[説明] フィールド	イメージの説明。
[アップロードするファイルの選択 (Select a file for Upload)] フィールド	[参照 (Browse)] をクリックしてファイルを特定してから、[アップロード (Upload)] をクリックします。

- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。
イメージが、[アイコンイメージの管理 (Manage Icon Images)] ダイアログボックスにリストされます。
- ステップ 8** [閉じる (Close)] をクリックします。

次の作業

カタログを作成または変更する際には、このアイコンを選択できます。

アイコンの編集

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
 - ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
 - ステップ 3 アイコンのカテゴリを選択します。
 - ステップ 4 [アイコンイメージ] をクリックします。
 - ステップ 5 [アイコンイメージの管理] ウィンドウで、編集するアイコン イメージを選択します。
 - ステップ 6 [編集] (鉛筆) をクリックします。
 - ステップ 7 [アイコンイメージエントリの編集] ダイアログボックスで、[説明] を編集します。
 - ステップ 8 [参照] をクリックしてイメージを参照し、アップロードする代わりにファイルを選択します。
 - ステップ 9 [アップロード] をクリックします。
 - ステップ 10 アップロードが終了したら、[送信] をクリックします。
-

アイコンの削除

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
 - ステップ 2 [アイコン管理] タブを選択します。
 - ステップ 3 [アイコンイメージの管理] ウィンドウでアイコンのイメージを選択し、[削除] アイコンをクリックします。
 - ステップ 4 [削除] (X) をクリックします。
-

アイコンのプレビュー

手順

- ステップ1 メニューバーで、[管理]>[ユーザインターフェイス設定]の順に選択します。
- ステップ2 [アイコン管理]タブを選択します。
- ステップ3 [アイコンイメージ]をクリックします。
- ステップ4 [アイコンイメージの管理]ウィンドウで、プレビューするアイコンイメージを選択します。
- ステップ5 [情報]アイコンをクリックしてイメージをプレビューします。

タグライブラリ

タグ付けは、オブジェクトにラベルを割り当てるときに行います。管理者は、Cisco UCS Directorのリソースグループやユーザグループなどのオブジェクトにタグ付けするかどうかを決定できます。コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、仮想などのカテゴリにタグを割り当てることができます。また、選択したカテゴリのアカウントの特定のタイプにタグを適用することもできます。リソースグループでのタグの適用と削除の方法については、『Cisco UCS Director APIC Management Guide, Release 5.1』のセクション「Managing Tags of a Resource Group」を参照してください。

タグが作成されると、定義された適用可能なルールに基づいて、タグがフィルタ処理され、オブジェクトレポートに表示されます。タグは、リソースグループなどのオブジェクトに関連付けることができます。タグに関連付けたリソースのエンティティを表示するには、タグを選択し、[詳細の表示]をクリックします。別の方法として、タグをダブルクリックすることもできます。



(注) リソースエンティティがタグに関連付けられていない場合、テーブルは空になります。

タグの作成

レポートページで1つ以上のオブジェクトに割り当てることができるタグを作成するには、[タグライブラリ]タブの[作成]アイコンを使用します。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー]>[タグ ライブラリ]を選択します。
- ステップ 2** [タグ ライブラリ] タブで、[作成] をクリックします。
- ステップ 3** [タグの作成] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[名前] フィールド	タグの名前。
[説明] フィールド	タグの説明。
[タイプ] ドロップダウン リスト	タグ タイプとして [整数] または [文字列] を選択します。
[可能なタグ値] フィールド	タグに設定可能な値。

- ステップ 4** [次へ] をクリックします。
- ステップ 5** [適用可能なルール] 画面で、次のフィールドに入力します。

名称	説明
[エンド ユーザに表示] フィールド	タグがエンドユーザーに表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[タグ付け可能なエンティティ] フィールド	<p>タグの適用が必要なエンティティを選択します。</p> <p>エンティティを追加するには、以下の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 +アイコンをクリックします。 2 [カテゴリ] ドロップダウンリストからカテゴリを選択します。次のいずれかを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual_Compute • Virtual_Storage • Virtual_Network • Physical_Compute • Physical_Storage • Physical_Network • 管理 3 タグ付け可能なエンティティを選択します。 4 [送信] をクリックします。 <p>(注) タグは、セットになったタグ付け可能なエンティティに応じてそれぞれのカテゴリの下に表示されます。</p>

ステップ 6 [送信] をクリックします。

タグの編集

手順

- ステップ 1 メニュー バーで、[ポリシー]>[タグ ライブラリ] を選択します。
- ステップ 2 [タグ ライブラリ] タブで、編集が必要なタグを選択します。
- ステップ 3 [編集] をクリックします。
- ステップ 4 [タグの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[名前] フィールド	表示のみ。 タグの名前。 追加すると、その名前は変更できません。
[説明] フィールド	タグの説明。
[タイプ] ドロップダウン リスト	表示のみ。 タグのタイプ。
[可能なタグ値] フィールド	表示のみ。 タグに設定可能な値。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 [適用可能なルール] 画面で、次のフィールドに入力します。

名称	説明
[エンド ユーザに表示] フィールド	タグがエンドユーザーに表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[タグ付け可能なエンティティ] フィールド	<p>タグの適用が必要なエンティティを選択します。 編集アイコンを使用して既存のエンティティを変更できます。</p> <p>エンティティを追加するには、以下の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> + アイコンをクリックします。 [カテゴリ] ドロップダウン リストからカテゴリを選択します。 この属性の種類は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual_Compute • Virtual_Storage • Virtual_Network • Physical_Compute • Physical_Storage • Physical_Network • 管理 タグ付け可能なエンティティを選択します。 [送信] をクリックします。

ステップ7 [送信] をクリックします。

タグの複製

手順

ステップ1 メニューバーで、[ポリシー]>[タグ ライブラリ] を選択します。

ステップ2 [タグ ライブラリ] タブで、複製が必要なタグを選択します。

ステップ3 [複製] をクリックします。

ステップ4 [タグの複製] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[名前] フィールド	タグの名前。
[説明] フィールド	タグの説明。
[タイプ] ドロップダウンリスト	タグタイプとして [整数] または [文字列] を選択します。
[使用できるタグ値] フィールド	タグに使用できる値。

ステップ5 [次へ] をクリックします。

ステップ6 [適用性ルール] 画面で、次のフィールドに入力します。

名称	説明
[エンドユーザーに表示] フィールド	タグがエンドユーザーに表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[タグ付け可能なエンティティ] フィールド	<p>タグ付けが必要なエンティティを選択します。エンティティを追加するには、以下の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 +アイコンをクリックします。 2 [カテゴリ] ドロップダウン リストからカテゴリを選択します。次のいずれかを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Virtual_Compute • Virtual_Storage • Virtual_Network • Physical_Compute • Physical_Storage • Physical_Network • 管理 3 タグ付け可能なエンティティを選択します。 4 [送信] をクリックします。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

タグの削除



(注) リソースまたはエンティティに関連付けられたタグは削除できません。

手順

- ステップ 1** メニュー バーで、[ポリシー]>[タグ ライブラリ] を選択します。
- ステップ 2** [タグ ライブラリ] タブで、削除する必要のあるタグを選択します。
- ステップ 3** [削除] をクリックします。
- ステップ 4** [タグ] ダイアログボックスで、[削除] をクリックしてタグの削除を確認します。

サポート情報

Cisco UCS Director サポートは、ライセンス ステータス、データベース テーブル、バージョン、リソース使用状況、ログ、トラブルシューティング用のデバッグ プロセスを含む、基本および高度なシステム情報を提供します。

サポート情報の表示

手順

-
- ステップ 1 メニュー バーで、[管理]>[サポート情報] の順に選択します。
 - ステップ 2 [システム情報] タブを選択します。
 - ステップ 3 [System Information and Logs Link Page (システム情報およびログ リンク ページ)] リンクをクリックします。Cisco UCS Director の [Product System Information (製品システム情報)] ウィンドウが表示されます。
-

システム情報の表示

基本システム情報には、バージョン、稼働時間、サービス ステータス、システム ライセンス ステータス、使用状況、計算アカウント ステータス、計算サーバ ステータス、ストレージ アカウント ステータス、システム カタログ、ネットワーク デバイス ステータス、およびクラウド ステータスが含まれます。

高度なシステム情報には、基本システム情報、データベース テーブル サマリー、製品構成、最上位 プロセス 情報、および プロセッサ、メモリ、ディスク、ログ ファイル、ネットワーク、ログインに関する情報が含まれます。システム タスク ステータス、クラウド インベントリ、および モニタリング ステータスを表示することもできます。

ログの表示

ドロップダウン リストからログ ファイルの 1 つを選択できます。[ログの表示] をクリックすると、ログの最後の数行が表示されます。

ログのダウンロード

[すべてのログのダウンロード] をクリックして、すべてのログ ファイルを Zip 形式でダウンロードできます。

デバッグ ログの開始

デバッグ ログでは、最大で 30 分間のデバッグ ログをログ ファイルに記録できます。

手順

-
- ステップ 1** [デバッグ ログの開始] をクリックします。
 - ステップ 2** デバッグが完了したら、[デバッグ ログを停止] をクリックします。
 - ステップ 3** ファイルをダウンロードするには、[HH.MM.SS] (時間) から、[デバッグ ログのダウンロード] をクリックします。
-

